

重要文化財 「吉村家住宅」

5月3日(祝 憲法記念日)・4日(祝 みどりの日)に特別公開

重要文化財「吉村家住宅」(島泉5丁目・近鉄南大阪線高鷺駅から北へ徒歩15分)の春季特別公開は、5月3日(月・憲法記念日)・4日(火・みどりの日)の2日間開催されます。開催時間は、午前の部が10時～正午、午後の部が1時～3時までで、見学料は500円です。(小学生以下は保護者同伴に限ります・中学生以下は無料です)今回も予約制で実施されますので、ご希望の方は社会教育課文化財担当へ電話(958-1111)またはFAX(956-7196)にてお申し込みください。

吉村家は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の近くにあつて功を重ね



た武将・佐々木高綱の子孫で、鎌倉時代初期に島泉付近に移り住んだと伝えられ、江戸中期には、現在の羽曳野市、松原市、八尾市などのあった18カ村の大庄屋を務めていました。住宅は、元和元年(1615)大坂夏の陣の直後に建築されたとみられ、桃山時代の書院造りの建築様式を一部に留める代表的な上層農家の遺構

です。

5,280㎡(約1,600坪)の敷地には、主屋、長屋門や土蔵などが、昔日のおもかげをとどめて並んでいます。当日、主屋では、つり部屋やカマドがある土間、主人とその家族が住んだ居室、古風な輿寄せの玄関、書院造りの座敷、意匠を凝らした明障子や欄間の透かし彫り、長押の釘隠し金具、襖の引き手などがある客室部などを見学できますので、ぜひお出かけください。

(午前は10時30分頃、午後は1時30分頃から吉村さん〈ご当主〉の説明を予定しています。)

(社会教育課 世界遺産登録準備室担当 内線4482)

サラダボール

ある図書館での出来事です。

幼稚園くらいの女の子が、スケッチブックと手提げ袋を両手に持ち、背中には大きなリュックを背負って、母と兄の後ろについて歩いていました。ところが、軽い傾斜に足をつまみずかせ、前に転んでしまいました。私の目の前で、あまりに勢いよく転んだので、思わず「大丈夫？」と声をかけました。そのとき、それに気づいた母親が振り返り、「なーにしてんの？信じられへんわー。ママはかわいそうなんて思わへんからね！」とその女の子に言いながら、男の子と2人で前に歩いていきました。女の子は、起き上がり、はずかしそうにこちらをチラッと見て、急いで母と兄の後ろを追いました。その光景を見て、私は、とても切ない気持ちになったのを覚えています。

最近の子どもは、『自尊心』が低下していると言われて久しくなります。「自分は大切な存在なんだ」という気持ちを持つことによって、何事にも前向きに努力する意欲が持てたり、まわりの人を大切にしようとする気持ちにもつながります。その『自尊心』は、「自分がどれだけ大切にされたか」という体験によって培われます。特に生まれてから幼児期くらいまでの体験は、『自尊心』の根幹になる部分です。

では「大切にされる体験」とは、どんなものなのでしょう？

それは、「何かを与えられる、させてもらえる、してもらえる」あるいは、間違っただけをされているのに、それを許してといったものではなく、「本当に困ったときに、手を差し伸べてもらえる」とか「本当に甘えたいとき

に、甘えられる」といった心が満たされる体験だと思えます。

自分の子育てを振り返ったとき、子どもが話をしたいときに、忙しさにかまけて、いい加減な聞き方をしてなかったか？

子どもを叱るときに、自分の感情に任せて怒ってなかったか？

「しつけ」と称して、心ない言葉を投げかけてなかったか？

本当に子どもの『自尊心』を育てる子育てをしてきたかどうか？

街行く子ども連れの姿を見るたびに、そんな自戒の念を抱きながら、これからの社会を担う子どもたちに、健やかに『自尊心』を育まれることを願う今日この頃です。

じんけんすいしんか
(人権推進課)